

# 乙姫城

妻木城址の会

〒509-5301

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

## 定例総会のお知らせ

来る四月十二日（日）に講演会及び定例総会を行いますので多数の方の出席をお願い致します。

講演会（水野幸爾氏（土岐市図書館長・妻木城址の会理事）に古田織部についてお話しいたします。

総会は事業報告・決算報告に引き続き、次年度の事業案・予算案の審議をお願いいたします。

期日 四月十二日午後一時三十分より

会場 妻木町産業福祉センター三階

スケジュール

講演会 十三時三十分

総会 十五時

## 新年度会費納入のお願い

新年度分の会費の納入をお願いいたします。同封の振込用紙をご使用下さい。なお、用紙が2枚入っておりますが、本会にご寄付いただける方は、金額無記入の用紙を使用の上、会費及び寄付金の合計額を記入していただき、振込をお願い致します。また総会当日は会場にて受付いたします。

妻木城址の会は会員の皆様の会費によって成り立っております。妻木城の下刈り作業や文化財展の実施などの経費に充てられています。地域住民や妻木城を愛する人の力でこの運動を成功させたいと思っておりますので、ぜひ会員の継続をお願いいたします。また、新規会員の勧誘をお願いいたします。

## 城山への林道を桜並木に

三月二十九日に昨年に引き続き妻木城への林道に桜の苗木が植樹されます。妻木町青少年育成会が主体となつて、小学校入学児童や還暦など記念植樹を呼びかけました。当日は妻木町の自治会関係者をはじめ、城址の会も参加します。

### 土岐明智氏の歴史(二)

#### 土岐明智氏と連歌

土岐明智氏は室町幕府の將軍の直屬の家臣(奉公衆)として仕え京で生活することが多くなった。京では武家・公家・文化人などと交流して京文化に接した。文明十六年(一四八四)に將軍足利義尚の連歌会に明智頼宣の名前が見える。以後十年ほどの間に土岐明智頼連、土岐明智入道、明智兵庫入道玄宣、明智中務少輔政宣など多くの名前が登場する。特に玄宣は宗祇から宗匠に推薦されている程である。

またこの頃瀬戸より陶器の製造技術を導入して美濃焼の基礎を作った。当時の古瀬戸系の窯跡はほとんどが土岐明智氏の領内にある。

#### 土岐明智氏の内紛

明智入道玄宣が京で連歌に興じている間に、延徳二年(一四九〇)妻木では一族の上総介の親子に実権が移っていく事態になっていた。玄宣は幕府に訴えたものの五年後に出された幕府の裁定は、領地を半分づつにというもので、この時代には幕府にも守護土岐氏にも現状容認する裁定を出すのが精一杯であった。以後土岐明智氏は上総介の系統がこの地方を

治める。

裁定がでて五年後土岐明智氏に再び内紛が起る。文龜二年(一五〇

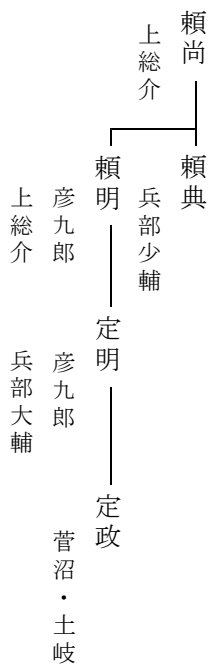
二)明智頼典が弟の房頼を殺害した。これに対して父頼尚は頼典を

追放し彦九郎頼明に土岐明智氏を相続させた。この時の所領は妻木村、笠原村、駄知村、細野村の四ヶ村(土岐市)である。彦九郎頼明は妻木村八幡神社の

文龜2年の所領



○1400年後半の窯跡



屋根の葺替えや、將軍へ太刀を寄進した記録などが残されている。

### 土岐明智氏の没落

沼田土岐氏の記録によると天文二十一年（一五五二）本家である美濃守護土岐氏が斎藤道三に滅ぼされた時、明智定明は討死しその子定政は母の実家である三河の菅沼氏を頼って落ちていった。頼重以来二〇〇年間この地方を治めた土岐明智氏は没落し、代わって一族の妻木氏がこの地方を治める。

### 菅沼を称した三河時代

菅沼氏は奥三河の山間部を本拠（愛知県設楽郡）とする豪族で土岐氏の一族と云われる。田峰城主菅沼定広の娘が明智兵部大輔定明の妻として妻木城に輿入れした。そして生まれた子が定政である。定政は父の討死により家臣に守られて奥三河へ落ちてゆき、母の弟菅沼定仙の養子になり菅沼を名乗る。そして後徳川家康に仕える。一方母は土岐明智家に伝わる大切な古文書や系図を持って落ちのび、定政と再会する。

### 沼田藩主土岐氏

徳川家康に仕えた定政は、各地の戦いで戦功をあげる。

天正一〇年（一五八二）甲斐国巨摩郡切石一万石  
天正一八年（一五九〇）下総国相馬郡守屋一万石  
文禄二年（一五九三）徳川家康の命により名家「土岐」に復姓する

岐に復姓する

関ヶ原の合戦後譜代大名として

元和三年（一六一七）摂津国高槻城二万五千石

元和五年（一六一九）当主幼少により下総国相馬郡

一万石

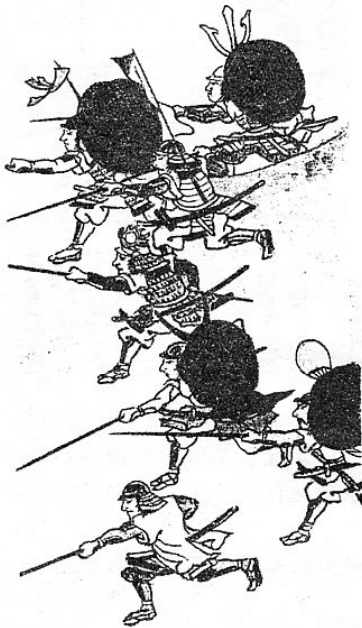
寛永五年（一六二八）出羽国上山城二万五千石

元禄四年（一六九二）三万五千石に加増

正徳二年（一七一一）駿河国田中城へ

寛保二年（一七四二）上野国沼田城へ

頼稔の時京都所司代・大阪城代・老中を勤めるなど幕府の要職を歴任し、以後幕末まで沼田藩主土岐氏として存続する。



# 美濃焼を育てた 城主に思いはせ

## 妻木城発掘の説明会に60人 土岐

### 妻木城の学術調査が始まりました

美濃焼を育てたことで知られる妻木氏の居城だった土岐市の妻木城の土(さむらい)屋敷跡発掘調査の現地説明会が十四日、妻木町の現地で開かれた。美濃焼の出土など、妻木城の初めての発掘調査の成果を見ようと約六十人が集まった。

### 『茶道流行を証明』

妻木城は正平七(一二五二年)ごろ、土岐明智氏によって築城されたといわれ、戦国時代になって妻木氏が領主になった。十七世紀初頭に妻木氏が断絶してからは廃城になり、畑にされたり、自然芋が採集されて穴が掘られるなど、保存状態はよくないという。発掘調査は市埋蔵文化財センターによって、九年十月から始まった。発掘されたのは御殿跡と伝えられる敷地の一部など約二百平方メートル。十七世紀初めごろのものと見られる美濃焼の茶わんや皿など約百点が見つかった。妻木城のように近世初頭の城郭遺構が城主と家臣の屋敷跡などを含めて残っているのは全国でもまれ。県史跡に指定されているが、これまで測量図など



発掘現場で説明に聞き入る参加者たち＝土岐市妻木町で

の基礎資料はない。

説明会では、不定形な石列やかわらこ石の集積、石段が見つかった場所を紹介。調査に関わった市埋蔵文化財センターの林順一さんは「今回は、詳細な遺構を把握するところまでいかなかったが、当時流行していた茶道に関連する道具が見つかったのは意義がある」と話していた。

中日新聞東濃版より

昨年12月より妻木城御殿跡土屋敷跡の測量調査が、土岐市埋蔵文化財センターによって行われました。今回の調査は遺跡の分布など基礎的な調査が主目的で、それに伴って御殿跡部分の遺構状況の確認を目的とする発掘調査が実施されました。

江戸時代初期の居館の調査は全国的にも数が少なく、貴重な遺構であり今後の調査が楽しみです。